

1 生活支援・支え合いサービス事業 「御宿町交流サロン運営事業補助金交付要綱及び御宿町交流サロン施設等整備事業補助金交付要綱の制定（ふれあいの家）」

御宿台地区からの依頼により、地域の支援に取り組むための先進地事例の紹介や地域の実情に沿った活動実施に向けての提言等を受けるため、平成31年4月25日（木）に、株式会社ちばぎん総合研究所を招いて「高齢化が進む地区における生活・移動困難の現状と対応について」をテーマに、地域課題に関する勉強会・意見交換会を開催しました。



▲地域課題に関する勉強会・意見交換会

町では10月に、地域の支え合いや生活支援活動を推進するため「御宿町交流サロン運営事業補助金交付要綱」及び「御宿町交流サロン施設等整備事業補助金交付要綱」を制定し、地域の集会所等の公共的施設又は民家、空き家、空き店舗等を活用して行う交流サロン事業の運営や施設等整備に対し補助金を交付する事業を開始しました。

その後、補助金を活用した交流サロン事業の第1号として、御宿台の方々を中心とした「ふれあいの家」が、民家を活用した交流スペースを11月に開設しました。



▲利用者とボランティアの皆さん



▲交流スペース「ふれあいの家」（御宿台）

交流スペース「ふれあいの家」は、11月9日から毎週土曜日に御宿町の住民の交流並びに多世代間交流の場としてのサロン活動を開始し、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2月29日から3月にかけて一時的に閉所しましたが、令和元年度は合計15回サロンを開催し、330人の方が利用しました。

サロンでは、利用者が1コイン（100円）を払い、お茶とお菓子をいただきながら談笑したり、情報交換したり、歌を歌うなど交流を図りました。サロンの運営は、ボランティアの皆さんが協力し合って進めています。

5月19日(日)に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第5回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、「大人と子どもでオリーブ&ハーブを植えよう」をテーマに総勢30名で実谷区民館にオリーブ&ハーブ園を作りました。



▲竹上先生より植え方を教わっています

オリーブやハーブの効能、植え方、育て方を三育学院大学 竹上 喜征先生より教わりながら行いました。オリーブを植えるために穴を深く掘ったり、ハーブ園となるように花壇を作ったりと全員で協力しながら実施しました。

実施後は、三育学院大学 棚橋 ゆか管理栄養士がオリーブの葉で作ったグリッシーニとお茶を飲みながら疲れを癒しました。

今後は、植樹したオリーブやハーブを住民で育て、活用していきます。



▲子どもと高齢者が一緒に草むしりしている風景

今回も以前と同様、実施にあたり、地域住民の方を中心に事前に植える場所の選定や事前準備、三育学院大学の先生と打ち合わせ、役場産業観光課、企画財政課の協力を得るなど寄茶場がよりよいものになるよう実施しました。

参加者は「特別なことは求めてなく、集まるのが大事」という声があり、今後も気軽に子どもから大人まで集える場所作りを住民の皆さんと作って行きたいと考えています。



▲グリッシーニを食べながら談笑しています



▲実谷区民館に作ったオリーブ&ハーブ園

7月22日(月)に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第6回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、「オリーブ&ハーブ園草むしり&空間づくり」をテーマに総勢25名で実谷区民館をきれいにしました。



▲子どもたちが一生懸命草むしりしています



▲実谷区民館をきれいにしている姿

今回、実谷区民館の軒下が物置になっているのをきれいにし、ちょっとした休憩場所として活用する目的と子どもたちがサッカーなど遊べる場所として活用できるようにしたい地域の思いから実施することになりました。

暑い中でしたが、大人がやっている姿を真似して、子どもたちも草むしりやむしった草を集める作業と一緒に頑張りました。実施後は、早速子どもたちがサッカーボールやバトミントンを持ってきて遊ぶ姿や大人が教える姿も見られました。大人は子どもたちが遊ぶ姿を見ながらお茶を飲み休憩しました。その光景がとても微笑ましく、これこそ「地域全体で子どもを育てる姿」だと感じました。

第5回寄茶場 in 実谷&七本の実施の時に参加者より「特別なことは求めてなく、集まることが大事」という意見を実行できた内容でした。

きれいになった実谷区民館やオリーブ&ハーブをさらに活用し、地域を盛り上げたいと思います。



▲オリーブアンパンを食べながら休憩中



▲きれいになった実谷区民館の軒下

8月22日（木）に、実谷区民館で地域と三育学院大学の方5名が実谷区民館の草むしり、椅子のニス塗りを実施しました。



▲住民と学生がニスを塗っている姿



▲ベンチがきれいになるように丁寧に塗っています

今回、実谷区民館の敷地内の草が生えてきたことや「第6回寄茶場 in 実谷&七本」できれいにしたベンチや椅子をさらに長く使用できるようにニスを塗ることの提案があり、有志で実施しました。

今回、地域の方が声掛けや区長へ連絡、三育学院大学と日程調整など実施しました。夏の暑さもあり、参加者は少なかったものの、地域の方と学生の繋がりも増える良い機会となりました。

このようなちょっとした集まりが地域づくりに繋がるため、今後増えていくことを期待します。



▲きれいになったオリーブ&ハーブ園

10月7日（月）に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第7回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、三育学院大学の保健師実習も兼ねて学生が「家の中の整理整頓と簡単な運動で転倒を防ぐ」をテーマに講話を実施しました。

総勢19名が参加し、皆で転倒を防ぐための環境づくりを学びました。

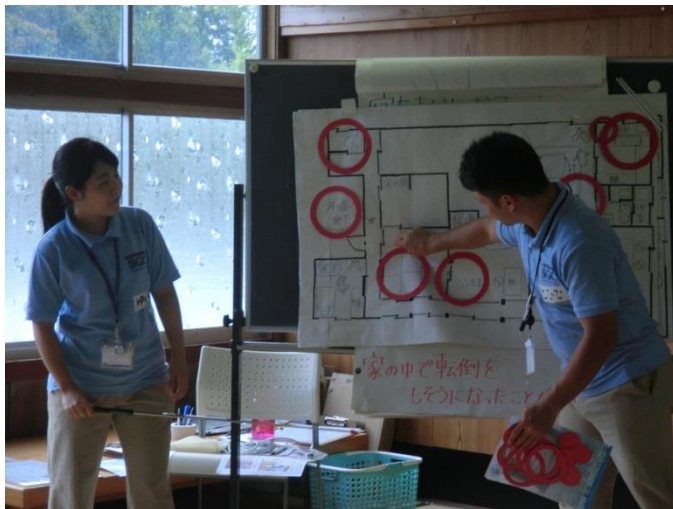


▲家の中で転倒しそうな場所を真剣に考えています

今回は三育学院大学の学生が家の中の整理整頓やちょっとした工夫による転倒予防を中心に話をしました。

家の中で電気コードやマットにつまづき転びそうになった経験をした方も多く、学生からの「転ばないためのポイント」を真剣に聞いていました。住民の感想の中にも「家に帰って整理整頓します」や「自分の生活を見直したい」など早速実践する意見が多くありました。

講話の後は、学生と住民が一緒にお茶を飲みながら談笑し、楽しい一時を過ごすことができました。



▲学生が家の中で転倒しそうな場所を説明する姿

今回、三育学院大学の学生が中心となり企画からチラシ作り、住民への声掛けを実施しました。学生が地域住民へ熱心に声掛けを実施したおかげで寄茶場に初めて参加する方もいて、寄茶場を知るきっかけになりました。

今後は、寄茶場 in 実谷&七本を開始して1年が経つため、寄茶場の方向性を住民と話し合っていきたいと思います。



▲学生と住民がお茶を飲みながら談笑しています

12月22日(日)に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業「第8回 寄茶場 in 実谷&七本」を実施しました。

今回は、お正月のしめ縄飾りやわら細工を総勢43名の高齢者、親子、三育学院大学の学生で作成しました。



▲高齢者からしめ縄作りを教わる子ども達

今回、住民の方が新年に自分で作ったしめ縄を飾りたい、昔の伝統を知りたいという思いからしめ縄飾りやわら細工作りをしました。

ロコミやチラシを見て、しめ縄飾りを作りたい方が多く集まり、今まで参加したことがない高齢者や親子も多く参加しました。制作中も地元の高齢者の周りに子ども達が集まり教わっている姿がとても印象的で、時間を忘れるくらい楽しく過ごしました。



▲高齢者と子ども達がしめ縄を一緒に作る姿

今回、しめ縄飾りを教えてくれる方やわらを譲ってくれる方、装飾品集めなど、住民の方が率先して誰に何ををお願いするか決めました。また、当日もブルーシートやストーブなど地域住民の方が準備してくださり、今までで一番地域住民の方が中心となった多世代交流でした。

地域住民も「かしこまったことはせずに今回のような伝統を継承しながら多世代交流が出来るのが一番良い」と話していました。今後もこの意見のような高齢者と子ども達が自然と交流できる内容を実施していきたいと思います。



▲完成したわら細工

2月14日（金）に、実谷区民館で地域住民、三育学院大学と一緒に、多世代交流の仕組みづくり事業を実施しました。

今回は、「新型コロナウイルス感染症にかからないために」をテーマに三育学院大学の学生、教員から手洗い、咳エチケットなどの講話を実施しました。総勢15名の高齢者と学生等が参加者し、基本的な感染予防対策について学びました。



▲一回のくしゃみで唾が飛ぶ距離について話している姿

今回は、話題となっている新型コロナウイルス感染症をテーマにしたことにより地域住民の反応もとても良く、学生と住民が自然に会話しながら基本的な感染症予防対策を学ぶことができました。

また、講話後は実谷区民館で育てているハーブティを飲みながら学生、地域住民と交流や新型コロナウイルス感染症の情報交換を行いました。



▲マスクの正しい着脱について話す学生

今回は平日開催であったため、地域の子供たちの参加がありませんでしたが、学生と高齢者が楽しそうに学びながら交流することができました。

今回、新型コロナウイルス感染症についての講話と情報交換を通じた交流を実施し、メディアなどで様々な情報が溢れている中、正しい情報を知ることや情報を共有し、不安を解消することも多世代交流の拠点の一つの役割だと改めて感じました。

今後は、季節ごとに地域の子供たちと高齢者が交流できるように、今までの学びを活かしながら地域が活性化するよう地域住民と三育学院大学と協働していきたいです。



▲談笑しながら情報交換している姿

2-2 多世代交流の仕組みづくり事業

「交流サロン事業」

年齢や性別に関わらず、地域住民や移住者、移住希望者などが、気軽に集える交流拠点を設置し、子どもや高齢者の居場所づくりや交流プログラムの実施、まちづくりに係る人材の育成などにより、多世代交流の仕組みづくりを推進しています。

令和元年度は、地域おこし協力隊が浜地区の交流拠点である旧白鳥丸水産の建物を活用し、AOZORA café おんじゅく、裂織作品展、ラジオ体操交流会、バヌアツ写真展など様々な行事を開催し、参加者の交流を図りました。



▲ラジオ体操交流会



▲裂織作品展

その後旧白鳥丸水産の建物は、町の観光の中心である海岸付近にあり、福祉施策に限った活用だけではなく、より幅広い情報発信拠点として活用する中で、様々な交流を生む施設に移行しました。

令和元年11月からは、新たに空き店舗を借り上げ、多世代交流のための拠点づくりに向けて、施設等整備を行いました。

新しい交流拠点は、新町の朝市通りにある旧かぐや釣り具店を改修したもので、コンクリートの店舗部分と和室、キッチン、洋式トイレを有しており、様々な交流事業に活用できる物件です。さらに、店舗からの入口に手すりを設置するとともに、可搬型の車いす用スロープを備え付け、体の不自由な方が利用する場合にも対応できるようにしました。

今後は、地域おこし協力隊、ボランティア等との協働により、健康づくりや介護予防、多世代交流、子育て支援など様々な事業を展開していく予定です。



▲新しい交流の拠点「かぐや」(新町)



▲店舗部分の様子

3 特産品の開発事業 「特産品開発及び産品開発・交流拠点施設の整備」

【オリーブ等を活用した特産品開発】

オリーブ栽培は、収穫までにかかなりの時間を要するため、定期的な講習会等の開催により、栽培の目的を明確化し、栽培意欲の高揚を図る必要があります。

令和元年度はオリーブ購入者に向けて、講師の説明を受けると共に苗木の育成状況や栽培における問題点



▲オリーブの苗木

や工夫している事など互いの品評によって栽培意欲の向上と良質なオリーブ栽培を推進するため、講習会の開催を令和2年3月に予定しましたが、新型コロナウイルス感染症蔓延防止の観点から開催を中止いたしました。

オリーブは成木になるまで年数を要することから、若者から高齢者まで幅広い年齢層の方が育成状況を長く楽しめ、大切に育成することで生きがいとしての喜びも享受できます。

今後も苗木の販売促進を図り、購入者への講習会等の開催、併せてオリーブの実や葉を活用した6次産業化への取組や検討を行いたいと考えています。

【御宿町産品開発及び交流拠点施設の整備】

産品開発及び交流拠点となる環境を整えるため、町内の空き店舗を借上げ、内装の改修やテーブル、イスなどの必要備品の整備を行いました。

施設は産品の開発が行えるよう調理設備を設置するほか、人が集まる空間としての配慮や機能を向上させるべく改修を行いました。テーブル、イスなどの備品が新型コロナウイルスの影響により、納期が大幅に遅れるなど年度内での施設を活用した事業の実施には至りませんでした。

引き続き、新鮮な地元食材、地域産品を活用した特産品の開発や新メニューの開発に向けた研修会等を行う産品開発拠点として、また、食を通じた地域情報の発信、多目的な町のラウンジ、交流の場としての活用を検討、地域資源を生かした「にぎわい」の創出を目指します。



▲改修後の産品開発及び交流拠点施設

4-1 移住・交流促進事業 定住化ツアー

生涯活躍のまちの実現には、若者や現役労働層が活躍する社会であることが必要ですが、高齢化率の高い御宿町は、若者や現役労働層の割合が相対的に低いため、それらの層を町へ呼び込むことが必要です。

そのため、御宿町での体験をきっかけに、都市住民の中から御宿のファンが生まれ、御宿町との関係を築き、いずれ二地域居住や移住をすることを期待し、地域おこし協力隊と協働で、次のような日帰り体験ツアーを企画しました。

しかし、当日は悪天候であったため、ツアーは中止となりました。

目的

御宿町に多世代共存できる環境を作る。

そのためには → 主に都市部の現役世代との関係人口を増加させる

そのためには → 御宿の人と都市部の人とが知り合う、友達になるベースを作る

企画の概要/コンセプト

下記の人をターゲットに御宿の中で友達を見つけてもらう。

地域：都市部

年齢：若年層、ミレニアル世代

考え方：田舎好き、コミュニティ参加に抵抗なし、自然好き

働き方：場所を選ばない働き方が可能

具体的な施策

御宿町を回る日帰りツアー

募集人数 16人（都市部住民8人（男女各4人）、御宿住民8人（男女各4人）

2019年10月19日（土） 10時～17時

- 行程
- ・山間部を散策しながら狩猟（鳥獣の被害や活用等）や山里について知る
 - ・収穫体験&BBQで友達をつくる（『ゲストハウス海おやぶん』で開催し、気軽に立ち寄れる場所をつくる）
 - ・御宿の夕日（記念塔、岩和田漁港付近といった自然）を眺め、思い出を作ることにより、再度来町する機会を増やす

4-2 移住交流促進事業 特色ある教育プログラム事業

特色ある教育プログラム事業として、(株)市進の現役講師による小学生英語教室、中学生週末学習塾を実施し、令和元年度の新たな取り組みとして、小学生算数教室を開講しました。

小学生英語教室は小学校4年生の希望者を対象に実施しました。令和2年度から5年6年の教科としての英語への連動を考慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の向上を図りました。ハロウィンやクリスマスには外国人の先生と交流するなど、子供たちを「英語好き」にすることを目標に、楽しく学習しました。

小学生算数教室は小学校5年生の希望者を対象に実施しました。算数の中でも中学校数学の基礎部分となる小数、分数などの単元を重点的に指導し、基礎学力の向上を支援することを目的としました。また、計算演習や算数パズルなど正解できたときの達成感を感じられるように行いました。

中学3年生の希望者を対象とした週末学習塾では英語と数学の2教科を指導しました。少人数のグループ指導で行い、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図りました。定期試験直前期には試験の範囲にあわせて対策を実施し、入試前には過去の入試問題の演習・解説を行いました。わかるまで講師に質問する生徒の姿も見られました。



小4 英語教室



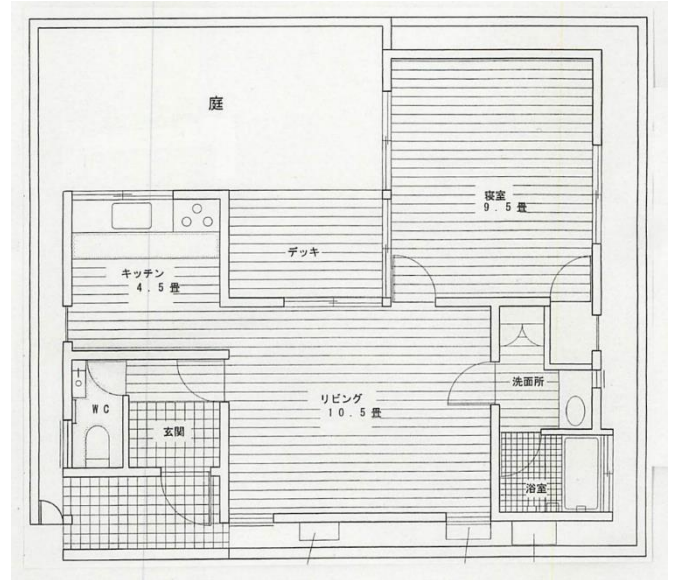
小5 算数教室

4-3 移住交流促進事業 お試し居住用住宅事業

お試し居住用住宅事業は、地域再生計画に基づき実施している地方創生推進交付金事業において、④移住・交流促進事業に位置づけられていて、お試し居住用住宅を借り上げ、移住したい方が御宿町ならではの暮らしを体験したり、地域のことを知る機会を得るために利用でき、移住者数の増加を目的としています。

この住宅は、利用にあたっての改修が可能であることや多世代が交流できるスペースとしての活用も可能であること、町中に近く移住希望者がお試しで利用するには立地が良いことなど、お試し居住用住宅に適しているため、御宿町浜にある**DECCO**ハウス（この住宅がある場所を、昔は「でっこ」といっていたことから）を借上げ、以前から御宿町の観光について研究されている工学院大学と連携して、改修が完了し、備品についても、購入・設置が完了しました。

今後、お試し居住用住宅として、多くの方に利用していただき、移住者が増えることが期待されています。



DECCO ハウス見取り図

